



沖縄県内でもコロナウイルス感染者が増加し、死者まで出ています。潜伏期間二週間の上に、自覚症状が出ない人もいます。まずは、「自分は感染しているかも知れない」と思い、日々の生活を送る事が大切です。

## 不自由の中に夢を見る

良啓

非常事態宣言が発令され、休校や不要不急の外出自粛で家にこもる時間が急が増えた方が多いと思います。現代生活で、これほど長く不自由を経験することは、珍しいと思います。この状況、私の京都の道場での修行時代に似ています。

初日の事でした。山門をくぐった所で寮長に言われました。

「東寺は観光寺だ。毎日たくさんのお客が来る。門は常に空いている。逃げるのは簡単だ。ただ、二度と戻って来るな！」

道場は外出禁止ですが、門は出入り自由です。それまで外出禁止令など経験したことなく、勝手気ままに生活していましたので、

この「出来るのにしてはいけない」と言う精神状態は、非常にストレスでした。

また、修行仲間内には、  
「なぜ、外出禁止なのに門が空いているんだ！」

と不平不満を言う人がいました。私は、その人と距離を置くことにしました。そして、「何の為に道場に在るのか?」「なぜ外出禁止なのか?」

について考え、ある答えにたどり着きました。

「修行に来ているんだ。修行に必要なことは全てお寺の中にある。」  
それから、東寺にある本を片っ端から読みました。お堂の廊下をピカピカになるまで雑巾掛けしました。あの時間は今の私の原点です。

今、急に不自由な生活を送っている皆様、足元を見てみてください。自由な生活の中で気が付かなかったことや大切な何かを大切にすることを

チャンスがそこには転がっているかも知れません。

そして、自由が訪れた時、その大切さに感謝しましょう。



## 「あいさつ

譜久島 宏美

年明け一月十一日より、神宮寺の寺務員としてお世話になっております譜久島と申します。

神宮寺とのご縁の始まりは昨年、暮れも押し迫った十二月二十五日。

それは当時勤めていた職場の給料日の帰り道のこと。臨時的に勤めていたとは言え向こうひと月、親子二人が生活を送るには心もとない額に肩を落とし歩いていました。と、そこへ十年來の友人から「神宮寺がスタッフ募集しているらしい」との知らせ。私にとってはまさに吉報!!『これは、きつと天からのご褒美に違いない!!』直観に従い、すぐさま面接のアプリ。

採用してもらえ確認はどこにもありませんでしたが、私の頭の中には境内を掃き掃除している自分の姿が浮かんだのですから、これもまた深遠なる天の采配(笑)

毎日出勤時には、ご本尊さまとお大師さまに『本日もし一日宜しくお願い致します。』と手を合わせてから業務に就ける事が嬉しくもあり有難いなあと、しみじみ感じております。

早く業務を覚え、ご来寺される皆様にスムーズな応答・ご案内が出来るよう日々励みます。

最後に新型コロナウイルスの早期終息を願って、

又、機会がありましたら次回は、暮らしに役立つ実用的なお話でもできればと思います。

